

杉山菜穂子

現在、国立西洋美術館に所蔵されるモーリス・ドニの作品中、油彩17点、素描18点、計35点の松方コレクションの作品^[1]は、画家が存命中の1920年代初頭に松方幸次郎により購入された後フランスに留まり、1959年の寄贈返還により所蔵されることとなったものである。これらの作品の制作年代はドニの画業の後半の1910年から1920年代初めに集中しており、ナビ派としての革新的な芸術活動を経て、再び古典的な様式や宗教的な主題に関心を向けた後のもので、特に1921年からのアルジェリア・イタリア旅行を主題に描かれた作品が多数含まれている。松方がこれらのドニの絵画を収集したのは、1921年4月から翌年2月までの彼の4度目のヨーロッパ訪問中であると考えられる^[2]が、その購入経緯詳細はこれまで明らかにされてこなかった。本論考では、松方が収集したドニの作品^[3]の大部分を含む国立西洋美術館の所蔵作品の購入経緯に関して、フランスでの美術品収集の相談役となったレオンス・ベネディットとモーリス・ドニ、そして松方幸次郎との間で1910年～20年代に交わされた書簡資料を紹介し、その調査結果を報告したい。

なお紹介資料のうち、ベネディットからドニ宛の未刊行書簡は、サン＝ジェルマン＝アン＝レーのモーリス・ドニ美術館に保管されており、モーリス・ドニの遺族であるクレール・ドニ氏の許可のもと調査を行った。またベネディット宛書簡及び手書きメモ等は、ルーヴル美術館に保管されるレオンス・ベネディットのアーカイヴにおいて閲覧した。

松方幸次郎のフランスでの作品収集の助言者としてコレクション形成に影響を与えたレオンス・ベネディットは、1886年からリュクサンブール美術館に勤務し1895年に同館長に就任、フランス国内での多数の展覧会監修のほか、ヴェネツィア・ピエンナーレ審査委員長を務めるなど海外へのフランス美術の普及活動も行う同時に、1917年にはロダン美術館開館に際して初代学芸員となりその基礎を築いた人物である^[4]。このベネディットとドニが出会った時期について、ドニの『日記^[5]』に言及はないものの、1907年1月14日の時点では既に二人の間に書簡のやり取りがあったようである^[6]。また1909年には、ベネディットが執筆中の『19世紀絵画の傑作について^[7]』においてドニの作品《プシュケの誘拐^[8]》を掲載し、紹介する際、個人的に書簡で画家にそれを伝えている（資料1）。さらに1920年代、既にロダン美術館館長に就任していたベネディットは、リュクサンブール美術館においても収集作品の選択、購入に関し影響力を持つ立場で画家ドニと接していた。ドニへの制作依頼を試みる書簡のやり取りからは、ベネディットが画家の選定に直接携わりその決定権を持っていたこと、またそれをドニも認識していたであろうことが伺える（資料2、3）。また1921年には松方の作品購入の仲介と同時に、リュクサ

ンブル美術館での素描購入についても具体的金額を挙げて言及している(資料11)。このように当時の「現代美術」を扱う美術館の館長として、ベネディットは、同時代の芸術家達を紹介、あるいはその作品収集活動をする際に既にドニとも直接の接点を持っており、このことが松方にドニを紹介し、その作品購入を促した遠因となったと言える。

1916年以降3回のヨーロッパ訪問で膨大な数の美術品を購入した松方と、このベネディットの交際は、1917年頃から画商のエドモンド・ディヴィス及び画家フランク・ブラングインという二人の英国人の仲介によって始まっていたとされる^[9]。ベネディットに信頼を寄せた松方が1918年8月には彼にロダンの作品購入に関して正式に依頼し、その後はロダン作品の鋳造発注だけでなくその他多数の絵画の収集全てを任せていた^[10]。美術館館長の立場と人脈を最大限に利用して推し進められた大々的な収集活動のうち、モーリス・ドニの作品購入計画は、1920年から既に松方とベネディットの間で書簡を通じて始まっていた。この年の秋、ベネディットがドニから作品購入の約束を取り付けたことに対し、松方は2通の手紙で重ねて喜びを伝えている(資料6、7)。このうち1通の書簡からは、この時松方がモーリス・ドニという画家の存在を聞いて知り、好意的に捉えていた^[11]であろうこと、そしてこの画家の作品が極東の日本でフランス美術を紹介するという目的にふさわしいものであると考えていたことが伺える(資料7)。さらに1921年フランス滞在時には、ベネディットの提案に従い松方自身もモーリス・ドニと直接面会しようと試みている。松方が画家と直接会って作品購入をすることを好んだことは既に知られている^[12]が、この希望を汲んだベネディットの計らいであろう。実際に直接面識があったのかは未だ確実なものとはならない^[13]が、書簡からは少なくとも松方がドニとの面会を望み、1921年6月のパリ滞在時には実際にドニが住むサン＝ジェルマン＝アン＝レーにまで出向いて作品を見る計画があり、ベネディットがその仲介役を果たそうとしていたことがわかる(資料8、9、10) [fig.1]。

このようなベネディットの仲介なしには、一人の日本人コレクターがドニのアトリエを訪れそこで直接作品を購入することはそれほど容易なことではなかったであろう^[14]。当時ドニは作品の大部分を自分の手元に置かずパリの画商ウージェーヌ・ドリユエの所に預けており、そこがドニの作品と美術館や美術愛好家、収集家とを結ぶ中継点となっていた。ドリユエはロダンの作品写真家としての仕事と同時に、画廊を開いて同時代の芸術家の展覧会を行い、また自作の作品写真アルバムを利用して絵画を売買するなど幅広い活動を行った^[15]。このドリユエ画廊においてドニ

は、主にイタリア旅行の主題を扱った作品による1904年の最初の個展^[16]に続き何度も個展やグループ展に出品し^[17]、同時代画家達やパトロン達と出会う機会も得た。またドリユエもドニ邸をしばしば訪れ、そこでドニの芸術家仲間や、音楽界、財政界の要人達と出会ったようである^[18]。ベネディットは、1913年にゲントの万国博覧会^[19]に出品されたドニの《9月の夕べ》^[20](1911年、ナント美術館) [fig.2]

fig.1

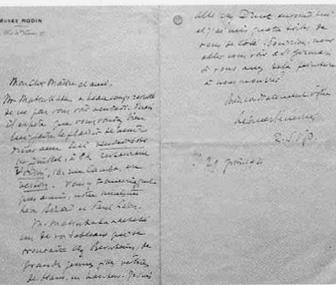
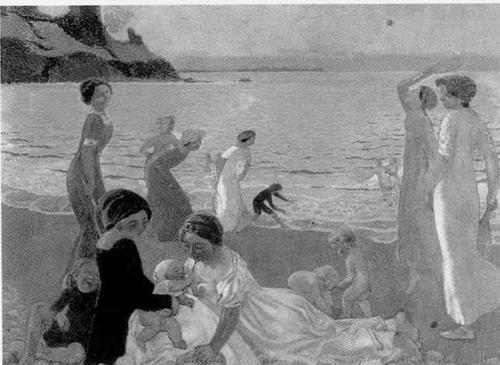


fig.2



を見た際、リュクサンブール美術館での購入の可能性に言及する手紙をドニに書き、ドニはその返答として当時絵を所有していたドリユエ画廊を紹介している(資料4、5)。このやり取りを通じてベネディットはドリユエ画廊との接触を始め、1920年代初めには、ジョルジュ・ベルネーム、デュラン・リュエル、ジョルジュ・ブティなどと並んでこのドリユエ画廊が主要な購入先候補となっていた。1921年6月末には、ベネディットが松方のために、実際にベルネーム画廊で1点作品を購入し^[21]、このドリユエ画廊では4点のモーリス・ドニの作品を確保していたようである(資料9)。1921年11月から12月にかけてのドリユエ画廊でのドニの個展には、おそらくここで確保した4点を含むドニの作品が、「松方氏所蔵」として9点出品されていた^[22]が、これは21年11月11日にベネディットがドニに宛てた書簡の中で、カタログに所蔵者として松方の名前を入れる手配をしていたからである^[23]。ここから、「東京の美術館」のための計35点の作品購入は、松方が渡仏中の1921年6月から11月のドニの個展オープン直前にかけての時期に行われたと推測できる(資料11)。

購入後、個展での展示を終えて、ドニの希望に従ってドリユエにより写真撮影された作品^[24]はロダン美術館へと運ばれた(資料12)際、12月13日付で「ロダン美術館に運ばれた、松方幸次郎氏所蔵の絵画作品目録」として、ドニ以外にもアルベール・マルケ、ポール・ゴーガンなど、合計で絵画29点、素描20点の作品が記録されている^[25](資料13)。ドニの作品は「ドリユエ夫人から購入した絵画」と「モーリス・ドニから購入した絵画」の2項目に分類され^[26]、ドリユエから購入した作品は、《水浴》《シエナの聖カテリーナ》^[27] [fig.3] 《サン・ドメニコ聖堂、シエナ》^[28] 《ヴァイラ・メディチの噴水》^[29] 《トンケデックのテラス》《行列》《黒い岩礁》^[30] 《字を書く少年》《ラ・クラルテの教会》《紫陽花》《ロスマパモン》《若い母》の12点、いずれも現在国立西洋美術館に所蔵されるものである。さらに、ドニから直接購入した油彩5点と素描20点については、1921年12月27日付の差出人なしのベネディット宛書簡中の記載から、購入価格が明らかになった(資料15)。「松方氏が購入し、ロダン美術館に預けた作品」として、ドニ以外の作品を含む価格リストの後、合計金額として136000フランの請求が記されている。この価格のうち、ドニの作品ではブルターニュで余暇を過ごす家族の様子を描いた1914年の《おやつ》^[31] [fig.4]が10000フランで最も高額、《エル・ケーテルの墓地》、《ローマ、

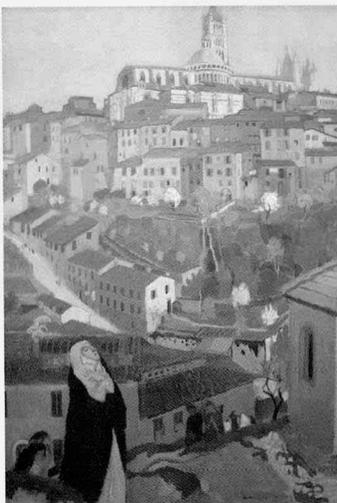


fig.3



fig.4

サン・ロレンツォ聖堂の回廊》、《コンスタンティース、アルジェリア》の3点は各8000フランで購入されている。シエナの《ケアトロ・トルリ城、シエナ》もまた1921年に描かれ同年ドリュエ画廊の展覧会に出品^[32]、1924年にはドニの大規模な回顧展にも出品されており、こちらは5000フランで購入された。また素描については、まとめて20点が20000フランで購入されたことが明らかになった^[33]。これらは他の画家の作品とあわせて136000フランでベネディットの立替により購入され、ロンドンでの松方の銀行口座の代理である鈴木商店が支払いを行った様子が記されている(資料16)。

これら一連の書簡のやりとりから、ドニ作品の購入取引が1921年6月の松方訪仏時から11月のドリュエ画廊でのドニ展までの間に行われ、所蔵者の名前を明記した上で展覧会に出品されたこと、またこの展覧会終了後作品がロダン美術館に運ばれドリュエからベネディットに引き渡されたことが明らかになった。松方は1918年の時点で、第一次世界大戦が終結するまでは美術品を無償でオテル・ピロンに保管するよう要求をしていたが、休戦後も、コレクションが未完であることと移動の困難さによりロダン美術館で保管することとなり^[34]、1959年の日本政府への作品返還実現までここに留まることとなった^[35]。こうしてベネディットは計らずもこの後数年間、フランス美術の普及という自身の目的と使命のためにこれらのコレクションを利用する機会を得た。松方購入のドニ作品は、先に挙げた通り1921年のドリュエ画廊におけるドニの展覧会に出品され、そのカタログにはベネディットの指示通りに「松方氏所蔵」と明記されたが、ここでの45点の出品作品中10点以上の作品を日本人のコレクターが所蔵していた事実^[36]は、観衆にも強い印象を与えたと思われる。翌22年の美術雑誌にはこの「松方コレクション」のことが取り上げられ、日本にフランス美術を中心とした美術館を建設しようとしている大コレクターとして、松方が肖像画付きで紹介されると同時に、その指導者としてレオンス・ベネディットの活躍が記されている^[37]。また、1924年、パヴィヨン・ド・マルサンにおける芸術装飾協会のドニの大規模な回顧展にも、松方コレクションの作品が4点出品されている^[38]が、その出品はドニ自身がベネディットに依頼したことにより実現したものであることがわかった(資料17)。ベネディットは、ドニの回顧展成功を自分にとっても喜ばしいことだと述べ、「全作品」を、特に松方の許可を得ることもなく貸し出している。さらにこれらの松方コレクションの作品は、1924年のヴェネツィア・ビエンナーレにも出品される^[39]が、これはカタログにも記載されている通り、ベネディットがこの展覧会の組織委員として関わっていたことと無関係ではない^[40]。

このように国内外でのドニの紹介において松方コレクションの作品が使用された理由としては、ベネディットが作品を貸し出す権限を有していたことが考えられる。松方コレクションのロダン作品についても、間接的な状況から、松方とベネディットの間には、外部の展覧会に対する作品貸し出しに際し松方コレクションの作品を正式に利用できるとした条項が含まれていたと考えられている^[41]が、このドニの作品の貸し出し状況もその事実と矛盾しないものだと言えるだろう。

本論考で紹介する資料を通じて、松方コレクションのドニ作品購入におけるレオンス・ベネディットの役割を考察した時、松方に対する彼の助言の影響力と、彼の人脉と仲介によってはじめて作品購入が実現した事実が明らかになったと同時に、この日本人コレクターの経済力とその収集活動が、ドニ自身やドリュエ画廊、そしてベネディットのフランス美術の普及という活動にとっても小さからぬ位置を占めていたことが言える。資料からも明らかのように、松方の美術館建設がフランス美術の普及と言うベネディットの目的と一致し得たことや、モーリス・ドニという画家が、とりわけ積極的に画廊や美術界の人間と関わり、展覧会組織や作品の普及に熱心であったこと、またドリュエ画廊という強力な仲介・宣伝拠点が日本を含む外国人コレクターに対して開かれた市場であったこと、さらには、1910年代から徐々に日本人がドニを訪れ、国内でもドニ紹介が行われていたこと等、様々な政治的意図や経済的要因、時代の要請により、ドニの作品が日本人コレクター松方幸次郎に所蔵されることとなったと言える。しかしまた同時に西洋絵画を日本に紹介するという松方の強い意志と、ベネディットの画家や画廊への働きかけという精神的な活動なしには作品収集が実現し得なかったことは、これらの書簡からうかがい知れる通りである。その点においてベネディットは確かにドニと松方幸次郎、そしてドニと日本を繋ぐひとつの架け橋となり、その役割を果たしたと言えるだろう。また、本論考における紹介資料によりこれまで詳細な検討がされなかった西洋美術館所蔵のドニの作品購入経緯について明らかになった事実は、ドニ以外の松方コレクションの購入経緯と少なからず共通点を持つものであり、その全貌究明の一端を担うものであると考える。

資料

1. ベネディットからドニ宛 1909年7月13日付

現在刊行中の19世紀絵画の傑作についての出版をフラマリオン氏から引き受けていました。私はその中であなたのページを用意し、《プシュケの誘拐》の複製を載せ自分の務めを果たしただけです。

2. ベネディットからドニ宛 1911年4月5日付

あなたの親しい文化担当大臣のために非常に快い仕事をしています。デュジャルダン・ボーメス氏は(中略)あなたのために一室確保するという私の提案を大変快く受け入れて下さいました。彼からこの問題についてあなたの合意を得るよう言われています。

3. ドニからベネディット宛 1911年4月6日付

デュジャルダン・ボーメス氏にかわってのご提案を大変嬉しく思います。あなたの役割がさきやかな仲介役をはるかに超えたものであること、そしてあなたこそがその計画の指導者で提唱者であることを知らないわけではありません。

4. ベネディットからドニ宛、日付なし

我々の展示室にもあなたの絵画を入れる機会を長い間狙っているのです。(略) Gentではあなたの送った作品を存分に楽しみました。特に「9月の夕べ」と題されたものです。私は思ったのです—そして繰り返し思うのです—これはリュクサンブール美術館に置くのにとっても素晴らしい絵画だと。それは可能でしょうか。

5. ドニからベネディット宛、1913年11月10日

ドリュエが美術愛好家達の間でも(ドニの絵画を)擁護しています。《9月の夕べ》についても同様でドリュエが私から購入したものです。(中略) お望みでしたら彼に紹介しましょうか。

6. 松方幸次郎からベネディット宛 1920年9月1日付

あなたがモーリス・ドニ氏から作品2点の約束を取り付けてくれたことを非常に喜ばしく思います。

7. 松方幸次郎からベネディット宛 1920年11月4日付

モーリス・ドニ氏の良い絵画を得るのは難しいことだとよくわかっています。この現代の巨匠の作品1点を我々が得ようとするのなら、それはあなたが私のために下さる絶え間ない努力のおかげによってしか為し得ないことを理解しています。(中略) ドニ氏があなたに私のための2点の作品を約束されたことをお聞きして大変嬉しく思っております。このフランスの芸術家は、あなた

の影響により、私がこの極東でフランスの芸術を紹介するという強い熱意を持って作品を展示する助けになります。

8. 松方幸次郎からベネディット宛 1921年3月28日付

ご親切に計画して下さいの通り、どうかドニ氏との手管を整えてください。(中略)私の甥がモネ氏と約束を取り付け、既に5点の絵を選んであると思います。私は5月6日か7日くらいにはニューヨークに行き、パリには6月の早い時点で行っていたいと思っていますので、その時にあなたと一緒にそれらの絵画や彫刻全てを下見したいと思います。

9. ベネディットからドニ宛 1921年6月29日付

松方氏は金曜にあなたに会えないことを非常に残念がっておりますが、7月14日の金曜夜8時に、ヴェストンのカンボン通り16番地にあるレストラン「Voisin」での彼との夕食に来て頂ける事を望んでおります。(中略)松方氏は私がベルネームのところで見つけたあなたの絵を購入しました。白い服を着た背の高い若い女達の大きな絵です。今日私はドリュエのところに行きあなたの絵を4枚確保しておきました。もしあなたが我々に見せる絵をお持ちでしたら、我々はサン・ジェルマンに伺ってもよろしいでしょうか。

10. ドニからベネディット宛 日付なし

モーリス・ドニは、明日月曜予定があるため、レオンス・ベネディット氏のご親切なご招待をお受けして伺うことができません。松方幸次郎氏にもよろしくお伝え下さい。

11. ベネディットからドニ宛 1921年11月11日付

松方氏と黒木氏の名前をあなたのカタログに載せて下さい。(中略)あなたから購入した絵画および素描の支払いは私がさせます。それについては、素描を1枚別にしておいていただき、東京の美術館をうらやましく思っているリュクサンブール美術館のために他の何枚かを選んでいただきかったことを忘れないで下さい。私には、少しですが自由に出来るお金が4000フランあります。それ相応に私にちょっとした作品一式を作っていただけかもしれませんよ。

12. ドリュエからベネディット宛 1921年12月10日付

モーリス・ドニ展が終了したところで、松方氏が私及びモーリス・ドニのところで購入した絵画についての指示をお願いしたく存じます。モーリス・ドニの希望に従い、全絵画の写真を撮影しましたので、早速あなたが望む時にロダン美術館に運ばせることができます。あなたが黒木氏にモーリス・ドニから購入させた2枚の絵画もこれと一緒に送る必要がありますでしょうか。

13. ドリュエからベネディット宛 1921年12月13日付

ロダン美術館に運ばれた、松方幸次郎氏所蔵の絵画作品目録

ドリュエ夫人から購入した絵画

9562	Maurice Denis	Plage au Canot (水浴)
9564	d.	Sainte-Catherine de Sienna (シエナの聖カテリーナ)
9566		San Domenico, Sienna (サン・ドメニコ聖堂、シエナ)
9570		Vasque de la Villa Médicis (ヴァイラ・メディチの噴水)
7841		Terrasse à Tonquedec (トンケデックのテラス)
9072		Procession à Fourqueux (フォルコーの行列)
9263		Les Rochers noirs (黒い岩礁)
9266		Aco écrivain (字を書くアコ)
9438		Eglise de La Clarté (ラクラルテの教会)
8745		Petite Plage aux Hortensias (紫陽花の浜辺)
32		Rosmapamon (ロスマパモン)
51		La jeune mère (若い母)

モーリス・ドニから購入した絵画

Maurice Denis	Constantine (コンスタンティース、アルジェリア)
	Cloître Saint-Laurent (ローマ、サン・ロレンツォ聖堂の回廊)
	Cimetière El Ketar (エル・ケーテルの墓地)
	Quatre Torri (クアトロトルリ城、シエナ)
	Le Gouter (おやつ)
	素描20点
Maurice Denis	Saidi Bou Said, Girgenti:黒木氏購入
合計:	絵画29点、素描20点

14. ベネディットからドニ宛 1921年12月21日付

昨日ロンドンに発った黒木氏の命で、あなたから私が購入した絵画の代金として小切手で18000フランお送りします。

15. ベネディット宛、差出人不明(ドリュエ) 1921年12月27日付

松方氏が購入しロダン美術館に預けた作品をお知らせします。委託の証明書も同封(略)以上合計 136000フラン お送りいただければ幸いです。

Maurice Dneis

Le Gouter (おやつ) 10.000フラン

Le Cimetière de El Ketar (エル・ケーテルの墓地) 8000フラン

St Laurent hors les murs (ローマ、サン・ロレンツォ聖堂の回廊) 8000フラン

Constantine (コンスタンティース、アルジェリア) 8000フラン

Quattro Torri (クアトロトルリ城、シエナ) 5000フラン

素描20点 20.000フラン

合計59.000フラン

16. 鈴木商会からベネディット宛 1921年12月29日付

あなたからの27日付のお手紙を受け取りました。松方氏が支払う136000フラン分の絵画等を購

入していただきお礼申し上げます。ここにあなたの借用明細支払いの136000フラン分の小切手を同封しますので至急領取書をお送り下さい。

17. ドニからベネディット宛 1924年2月9日付

おそらくご存知とは思いますが、この4・5月に、バヴィヨン・ド・マルサンにて私の作品全体の展覧会を行います。〈中略〉我々があなたから、すなわち美術館所蔵の絵画及び素描、あるいは松方氏所蔵の絵画をお借りできるかどうかお尋ねしたいのです。

18. ベネディットからドニ宛 1924年2月13日付

あなたの作品全体が名声を得ることは皆にとって本当に喜ばしいことですし、私にとってそれはいっそうの喜びです。従って松方コレクションからと同様リユクサンプル美術館からも、全作品をあなたに自由に使っていただけるようにしましょう。

(資料原文)

1. Léonce Bénédite à Maurice Denis, Paris, 13 juillet 1909

J'ai été chargé pour M. Flammarion d'une publication aujourd'hui en cours, sur les chefs-d'œuvres de la peinture au XIXe siècle. Je n' ai fait que mon devoir en vous y réservant une place et en y reproduisant l'Enlèvement de Psyché.

2. Léonce Bénédite à Maurice Denis, Paris, 5 avril 1911

Je suis chargé pour M. le sous-secrétaire d'Etat des Beaux-Arts près de vous d' une mission qui m' est infiniment agréable.M. Dujardin-Beaumetz (...) a bien voulu accepter très gracieusement ma proposition de vous réserver une salle. Il m a chargé de m'entendre avec vous à ce sujet.

3. Maurice Denis à Léonce Bénédite, St. Germain 6 avril 1911

Je suis très flatté de la proposition que vous me soumise de la part de M. Dujardin-Beaumetz. Je n' ignore pas d'ailleurs que votre rôle dépasse de beaucoup celui de modeste intermédiaire et que c'est vous qui avez été l' initiateur et l' inspirateur de ce projet.

4. Léonce Bénédite à Maurice Denis, Paris, s.d.

(...) il y a longtemps que je guette l'occasion de faire entrer une de vos peintures dans nos salles mêmes.(...). J'ai beaucoup goûté à Gant vos envois et particulièrement celui qui a titre :Soir de septembre. Je me suis dit – et je me dis encore – ce serait un délicieux morceau de peinture à mettre au Luxembourg mais serait-ce possible ?

5. Maurice Denis à Léonce Bénédite, Saint Germain en Laye, 11 novembre 1913

(...) Druet qui les défend ensuite entre les amateurs. C'est le cas du « Soir de Septembre », toile qu'il m'a achetée(...).Voulez vous donc vous mettre en rapport avec lui ?

6. Matsukata Kojiro to Léonce Bénédite, September 1st 1920

I am also very glad that you have secured M. Maurice Denis's promise for 2 pictures.

7. Matsukata Kojiro to Léonce Bénédite, November 11th 1920

I am fully aware of difficulties to obtain good pictures by Maurice Denis, and I know if I were going to have one of this modern master's, it was only successful through your untiring efforts for me (...). I am very glad to hear that M. Denis has promised you two pictures for me, and how glad I am feeling. The French artist helps me through your influence, to exhibit their work with ardent desire to show the French arts in the Far East.

8. Matsukata Kojiro to Léonce Bénédite, Kobe, March 28th, 1921

Please arrange with M. Denis as you kindly intend (...). I am thinking that my nephew has made arrangements with M. Monet and already selected five pictures. I am now hoping to be in New York on or about the 6th or 7th May and to be in Paris some time early in June, when I hope to go over those all pictures and sculptures with you.

9. Léonce Bénédite à Maurice Denis, Paris, 29 juin 1921

M. Matsukata a beaucoup regretté de ne pas vous voir vendredi, mais il espère que vous voudrez bien lui faire le plaisir de venir dîner avec lui Vendredi-soir 14 juillet, à 8h, restaurant Voisin, 16 rue Cambon ,en Veston (...). M. Matsukata a acheté un de vos tableaux que je trouvais chez Bernheim, de grandes jeunes filles vetués de blanc, en hauteur. Je suis allé chez Druet aujourd'hui et j' ai mis quatre toiles de vous de côté. Pourrions-nous aller vous voir à St Germain si vous avez de la peinture à nous montrer ?

10. Maurice Denis à Léonce Bénédite, Saint Germain en Laye, s.d.

Maurice Denis est dans l'impossibilité de se rendre libre demain lundi et s'est excusé de ne pouvoir accepter l'aimable invitation de M. Léonce Bénédite. Je lui adresse, ainsi que à M. Kojiro Matukata les compliments les meilleurs.

11. Léonce Bénédite à Maurice Denis, Paris, 11 novembre 1921

Faites figurer les noms de M.M. Matsukata et Kuroki sur votre catalogue (...). Je vais faire régler vos achats, peintures et dessins. A ce propos, je voudrais vous rappeler que, en vous priant de mettre un dessin de côté, je souhaitais que vous en choisissiez quelques autres, le tout à destinations du Luxembourg qui est jaloux du musée de Tokio. J'ai une petite somme de 4000 francs à ma disposition. Voudriez-vous avoir l'obligeance de me constituer un petit lot en conséquence.

12. Eugène Druet à Léonce Bénédite, 10 décembre 1921

L'Exposition de Maurice Denis étant terminée, je viens vous demander des instructions en ce qui concerne les tableaux que m'a achetés M. Matsukata et ceux qu'il a achetés chez Maurice Denis (...). Suivant le désir de Maurice Denis, j'ai fait photographies tous ses tableaux et je suis dès maintenant à même de les faire porter quand vous voudrez au Musée Rodin. Dois-je joindre à cet envoi les 2 tableaux que vous avez fait acheter à Mr Kuroki chez Maurice Denis ?

13. Eugène Druet à Léonce Bénédite, 13 décembre 1921

LISTE des Tableaux appartenant à Mr K. Matsukata livrés ce jour au Musée RODIN (...)

14. Maurice Denis à Léonce Bénédite, Saint Germain en Laye, 21 décembre 1921

Je suis chargé pour M.Kuroki, qui est parti hier pour Londres, de vous adresser le chèque de 18,000 francs en paiement des tableaux,qu'il vous a achetés.

15. (Eugène Druet) à Léonce Bénédite, 27 décembre 1921

J'ai l'honneur de se faire connaître qu'il a été acquis par M. Mastukata lui-même et pour son compte, (...) et je vous envoi ci-inclus un certificat de dépôt. Ce sont (...)
Tout au Total 136000 f que je vous serais obligé de me faire parvenir.

16. SUZUKI & Co à Léonce Bénédite, 29 décembre 1921

We beg to acknowledge receipt of your favour dated 27 th inst., and note with thanks that you have purchased for account of Mr. K. Matsukata pictures, etc., to the amount of Frs. 136000. We beg to enclose herewith Demand Draft for Frs. 136000 in payment of your Debit Note, and shall be pleased to be favoured with your receipt by return of post.

17. Maurice Denis à Léonce Bénédicté, Saint Germain en Laye, 9 février 1924
Peut-être savez vous qu' on organise en Avril-Mai au Pavillon de Marsan, une exposition totale de mon œuvre (...). Je voudrais vous demander ce que nous pouvons espérer obtenir de vous, parmi les toiles et dessins du Musée, et aussi parmi les tableaux appartenant à Matsukata.
18. Léonce Bénédicté à Maurice Denis, Paris, 13 février 1924
Vous pensez que ce sera une fête pour tous et une fête particulièrement pour moi de voir réussie votre œuvre d'ensemble. Je tiens donc tout à votre disposition aussi bien provenant du Luxembourg que de la collection Matsukata.

謝辞

今回の調査にあたり、下記の機関、方々にご協力いただいたことをここに感謝申し上げます。
Bibliothèque centrale des musées nationaux, Musée Départemental Maurice Denis « Le Prieuré », Musée Rodin, 国立西洋美術館, Claire Denis, Marie El Caïdi, 大屋美那, Hélène Pinet, 田中正之, Isabelle Vazelle

- [1] 国立西洋美術館が所蔵する油彩20点、素描19点、計39点のドニの作品中、本論考では松方コレクションに由来しない4点については扱わないこととする。
- [2] 松方の渡欧時期については以下参照。湊典子「松方幸次郎とその美術館構想について(上)」『Museum』394号、1984年、34頁。
- [3] 旧松方コレクションのドニ作品については以下を参照。神戸市立博物館編『松方コレクション 西洋美術総目録』『松方コレクション展』実行委員会、神戸市立博物館、1990年。
- [4] レオンス・ベネディットの活動については以下文献参照。*La promenade du critique influent, Anthologie de la critique d'art en France 1850-1900*, textes réunis par Jean-Paul Bouillon, Nicole Dubreuil-Blondin, Antoinette Ehrard, Constance Naubert-Riser, 1990, p.408 ; Anne Pinget, “Roïdn au musée du Luxembourg”, *La revue du musée d'Orsay*, n. 11, automne 2000, p.65.
- [5] Maurice Denis, *Journal*, Paris, La Colombe, t.I(1884-1904) ,t.II(1905-1920) et t.III(1921-1943), 1959.
- [6] ドニ美術館所蔵ベネディットからドニ宛1907年1月14日付書簡参照。
- [7] Léonce Bénédicté, *La Peinture au XIXe siècle, d'après les chefs-d'œuvres des maîtres et les meilleurs tableaux des principaux artistes*, Paris, Flammarion, 1909.
- [8] この作品は現在エルミタージュ美術館に所蔵される《ブシュケの物語》の一場面で、ロシアのコレクターであるイワン・モロゾフの注文により1908年に制作され、同年のサロンに出品された。以下参照。*Maurice Denis*, Musée d'Orsay, 2006 ; Montréal, Musée des Beaux-Arts de Montréal ; Rovereto, Museo di Arte Moderna, 2007, pp.260-274.
- [9] TABARANT, “La collection Matsukata”, *le Bulletin de la vie artistique*, 15 décembre 1922, p.565.大屋美那「松方コレクションのロダン彫刻に関する調査報告-1937年から1948年までの作品保管リストと国立西洋美術館所蔵の《エヴァ》の鋳造について」『国立西洋美術館紀要』No.4、2000年、37頁、注3、クリスティナ・ビュレイユリブ「松方とロダン美術館:あるコレクションをめぐる災厄」『ロダンと日本展』静岡県立美術館、愛知県立美術館、2001年、187頁。
- [10] クリスティナ・ビュレイユリブ、前掲、188頁、1919年11月17日付ベネディットから松方幸次郎宛書簡(ルーヴル美術館資料室)参照。また松方の美術品収集におけるベネディットの働きについては以下も参照。矢代幸雄「松方幸次郎」『芸術新潮』1955年1月。
- [11] このような松方の認識はドニが1910年代前半から日本の美術雑誌等で頻繁に取り上げられ、作品図版が掲載されるようになっていた状況と無関係ではない。ドニ及びナビ派の画家の日本での受容については以下参照。「ナビ派と日本展」新潟県立近代美術館、2000年、『モーリス・ドニ展』府中市美術館他、2003年。
- [12] 一例として松方がムンクと直接交渉を求めた背景について以下を参照。伊藤富美子「松方幸次郎とエドヴァルド・ムンク」『国立西洋美術館研究紀要』No.10、2006年、42-43頁。*The American Art News*, Vol. XX. No.15, January 21, 1922.
- [13] 少なくともモーリス・ドニの息子は面識があったと証言している。ドミニク・モーリス・ドニ「父モーリス・ドニとその友人たちの思い出」『モーリス・ドニ展』国立西洋美術館、1981年。
- [14] 1920年に同じくヨーロッパで絵画収集をし、大原美術館のコレクションの基礎を築いた児島虎次郎の日記からは、10月に彼がドニを訪問した際、一旦は他の客が来ていて面会できず、2度目に訪問した時も「アトリエに作品ほとんどなし。やっと《波》を買う」という状態であったことが記されている。松岡智子、時任英人「児島虎次郎」山陽新聞社、1999年、131頁。児島虎次郎については以下参照。松岡智子「児島虎次郎研究」中央公論美術出版、2004年。
- [15] ドニが所有していたドリュエの写真アルバム参照(モーリス・ドニ美術館資料室所蔵。何れも発行年不明)。*Catalogue des photographies d'œuvres d'art, procédés E. Druet, Peintures et Sculptures Anciennes et Modernes*, Galerie E. Druet ; *Catalogue Illustré des Photographies de la Collection Druet, Peintures et Sculptures Anciennes et Modernes, 500 reproductions*, Librairie de France.
- [16] Exposition *Maurice Denis*, préface d'André Gide, Galerie Druet, 22 novembre au 10 décembre 1904.
- [17] 1903-38年の間のドリュエ画廊での展覧会については、以下文献参照。Bernard Crochet, *Histoire de la Galerie Druet et de ses archives photographiques*, Mémoire de l'Ecole du Louvre,

1971, pp.171-204. モーリス・ドニ美術館が所蔵する以下カタログも参照。Maurice Denis, Galerie Druet, 1908 ; 1918 ; 1921 ; 1924 ; 1929. *Exposition annuelle 1er groupe*, Galerie E. Druet, 1911 ; 1912 ; 1913 ; 1921 ; 1923 ; 1924 ; 1925 ; 1926.

[18] ドリュエ画廊の活動については以下を参照。Jean-Claude Gelineau, “Eugène Druet, Marchand de tableaux parisien au début du XXe siècle”, *Bulletin de la société historique et archéologie de l’Orne*, n.3, 2003, pp.5-32 ; Bernard Crochet, *op.cit.*, pp.10-86 ; Eugène Druet (1868-1916), *Photographe d’art, marchand d’œuvres d’art et ses amis artistes*, exposition du 1er mars au 30 mai 1993, Musée Départemental Maurice Denis « Prière ». またドリュエによるドニの家族写真について以下参照。Nathalie Bondil, “Maurice Denis Photographe, L’œil mange la tête”, *Maurice Denis*, Musée d’Orsay, 2006, pp.73-77.

[19] *Exposition universelle et internationale de Gand*, 1913.

[20] 《9月の夕べ》は、1911年にドニが制作した油彩で、同年サロン・ナショナルに出品され、1914年にドリュエにより7000フランで購入されたものである。来歴については以下参照。Maurice Denis, Musée d’Orsay, 2006, p.222.

[21] この時ベルネーム画廊で購入した作品は、書簡中「白い服を着た背の高い若い女達の大きな絵」という記述から、国立西洋美術館所蔵《踊る女たち》[fig.5]ではないかと推定できる。松方コレクションの作品17点中、この作品のみがドリュエ画廊での購入記録がない。

[22] Maurice Denis, Galerie E. Druet, du 21 novembre au 2 décembre 1921.

[23] ベネディットは併せて黒木三次購入作品についても所蔵者名を入れるよう指示している。黒木所蔵は *Girgenti, Sidi Bou Said* の2点で、いずれも1921年制作、ベネディットの仲介で購入されロダン美術館に運ばれたが現在は所蔵先不明。書簡資料13参照。

[24] ドリュエによる松方コレクションのドニの作品写真は、現在パリ国立図書館に所蔵されており、黒木三次ほか日本人コレクターの収集品写真も含まれている。(Euvre de Maurice Denis, photographies par Eugène Druet, 12 vol., Bibliothèque Nationale.

[25] 購入作品の原題、制作年、及び展覧会出品歴等についてはAppendix: 国立西洋美術館所蔵 松方コレクションドニ作品購入に関するリスト参照。

[26] 前者は画廊の所有となっていたものを購入、後者はドリュエの仲介のもと画家自身が所有あるいはドリュエに委託していたものを購入し支払いはドニに対して直接行われたことを示す。ウージェース・ドリュエは1916年に没し夫人が経営の後を継いでいた。

[27] 作品の額縁裏[fig.6]には資料に記されたものと同じ作品番号「9564」が残されている。

[28] 《サン・ドメニコ聖堂、シエナ》も《シエナの聖カテリーナ》とともに、1920年から21年にかけて行ったイタリア旅行の思い出として描かれたものである。2点ともドニが1933年に刊行した、イタリアの旅行記かつ芸術論の集大成である『イタリアの魅力と教訓』の挿絵として用いられている。Maurice Denis, *Charmes et leçons de l’Italie*, Paris, Librairie Armand Colin, 1933. ドニのイタリア旅行については以下参照。Catherina Zappina, *Maurice Denis e l’Italia, Journal, carteggi, carnets*, Università di Perugia, 2001.

[29] ヴィラ・メディチの噴水は、ドニが1898年にアンドレ・ジイドとともにローマで訪れそこにイタリアの魅力を見出した象徴的な場所で、その後も繰り返し描いた。1921年のローマ滞在の際訪れ描いたのがこの作品である。《シエナの聖カテリーナ》、《コンスタンティヌス、アルジェリア》とともに、この《ヴィラ・メディチの噴水》は1921年夏、ドリュエ画廊での個展に先立ってドニのイタリア旅行を取り上げた美術雑誌記事に図版が掲載されている。以下参照。“M. Maurice Denis en Italie”, le Bulletin de la vie artistique, 1er août 1921, pp.416-419. なおヴィラ・メディチの噴水を描いた芸術家と作品については以下を参照。Vasque de Rome, *Ombres de Picardie : Hommage de l’Oise à Corot*, Musée départemental de l’Oise, 1987 ; *La Vasqua del Pincio, da Corot a Maurice Denis*, Museo Napoleonico, 1988.

[30] 日本語の作品名については全て国立西洋美術館所蔵品目録を参照したが、この作品の主題は、原題 *Les Rochers Noirs*, Perrosより、ペロス・ギレックの黒い岩礁の浜辺でありフランス海外県レユニオン島のレ・ロッシュ・ノワール *Les Roches Noires* の浜辺とは異なるため、ここでは作品名を《レ・ロッシュ・ノワール》ではなく《黒い岩礁》とした。

[31] 現在は所蔵先不明。前掲『松方コレクション西洋美術総目録』、以下の展覧会カタログ及び売り立て目録を参照。Maurice Denis et la Bretagne, *Maurice Denis à Perros-Guirec*, Musée de Morlaix, 1985 ; *Paris Nouveau Druet, mardi 18 mars 1986 14h30*, Ader Picard Tajan, n.45 ; « Le Gôûter à Trestrau ».

[32] この《クアトロトルリ城、シエナ》と《黒い岩礁》は制作年が特定されていなかったが、1921年ドリュエ画廊での展覧会カタログから、前者が1921年、後者が1920年であると判明した。Maurice Denis, Galerie E. Druet, du 21 novembre au 2 décembre 1921, n.3 *Les rochers noirs*, Perros (appartient à M. Matsukata), 1920; n.17 *Quattro Torri*, campagne de Sienne (appartient à M. Matsukata), 1921.

[33] シャンゼリゼ劇場天井装飾のための習作や《フィレンツェの夕べ》(1910年、パリ、プティ・パレ美術館)のための習作などを含む20点素描のうち、現在18点が国立西洋美術館所蔵となっているが、これらの主題等についてはここでは検討しないこととする。素描を含む寄贈返還時の作品タイトルについては以下文献中の作品リスト参照。“Collection Matsukata, *Journal officiel de la république française*”, 19 décembre 1958, p.11425.

[34] その後、1924年に日本政府による新たな関税法施行の結果、美術品を含む贅用品に10割の税金がかかることになり、松方の収集品の日本への輸送は留保され、1959年の返還実現までパリではロダン美術館に保管され続けることになった。パリに保管された作品総数について、以下では388点と指摘されている。湊典子「松方コレクションのイギリス絵画」『神戸市制100周年

fig.5



fig.6



記念展 松方コレクション展』神戸市立博物館、1989年。

[35] 松方コレクションのフランス政府から日本政府への返還の経緯についてはここでは論じないこととする。以下参照。「〈特集記事〉開館までの八年」『芸術新潮』1959年4月、132-7頁。「〈松方コレクション関係者の話〉松本重治氏にきく」『国立西洋美術館設置の状況 第一巻-関係者にきく-』14-20頁。矢代幸雄、前掲、168頁。大屋美那、前掲、28-30頁。

[36] 以下カタログには「松方氏所蔵」として9点、「黒木氏所蔵」として2点の作品名が掲載されている。Maurice Denis, Galerie E. Druet, du 21 novembre au 2 décembre 1921.

[37] TABARANT, *op.cit.*, pp.564-567.

[38] Maurice Denis, Union centrale des art decoratifs, Pavillon de Marsan, du 11 avril au 11 mai 1924.

[39] これら4点は全て現在国立西洋美術館に所蔵され、《ローマ、サン・ロレンツォ聖堂の回廊》の額縁裏にはビエンナーレに出品された際の印が残されている。出品作品については以下文献参照。Catalogo XIV Esposizione internazionale d'arte della città di Venezia, 1924.

[40] 前掲カタログのフランス・パピオリオンの項参照。Commissari ordinatori: Léonce Bénédite, conservatore del Museo nazionale del Lussemburgo.

[41] クリステイナ・ビュレイユリブ、前掲、190頁。

Appendix: 国立西洋美術館所蔵 松方コレクション二作品購入に関するリスト

作品名	購入時作品名(仏語)	制作年	購入元	価格(円)	展覧会出品歴(制作年-1920年代)
水浴	Plage au canot, Perros	1920	Druet	-	1921, Galerie Druet
シエナの聖カタリーナ	Sainte Catherine de Sieme	1921	Druet	-	1921, Galerie Druet ; 1924, Union centrale des arts decoratifs, Pavillon de Marsan
サンドミニコ聖堂、シエナ	San Domenico, Sieme	1921	Druet	-	1921, Galerie Druet ; 1924, Union centrale des arts decoratifs, Pavillon de Marsan
ヴァイオ・マチの噴水	La vasque de la villa Médicis	1921	Druet	-	1921, Galerie Druet
トクテックのテラス	Terrasse à Tonquedec	1913	Druet	-	
行列	Procession à Forqueux	1919	Druet	-	1924, XIV Esposizione Internazionale d'Arte della Città di Venezia
黒い岩熊	Les Rochers noirs, Perros	1920	Druet	-	1921, Galerie Druet
字を書く少年	Aco écrivans	1920	Druet	-	
ラウラルテの教会	Eglise de la Clarté	1917	Druet	-	Mars 1924, Galerie Druet
栗陽花	Petite Plage aux Hortensias	?	Druet	-	
ロスマンモン	Rosmappanton	1918	Druet	-	Décembre 1918, Galerie Druet
若い母	La jeune mère	1919	Druet	-	1924, XIV Esposizione Internazionale d'Arte della Città di Venezia
コンスタンテニス、アルジェリア	Constantine	1921	Druet	8000	1921, Galerie Druet ; 1924, XIV Esposizione Internazionale d'Arte della Città di Venezia
ローマ、サン・ロレンツォ聖堂の回廊	Cloître Saint-Laurent hors les murs	1921	Druet	8000	1921, Galerie Druet ; 1924, XIV Esposizione Internazionale d'Arte della Città di Venezia
エル・クーテルの墓地	Cimetière d'El Keïar, Alger	1921	Druet	8000	1921, Galerie Druet ; 1924, XIV Esposizione Internazionale d'Arte della Città di Venezia
クテト・トルリ城、シエナ	Quatre Torri, campagne de Sieme	1921	Druet	5000	1921, Galerie Druet ; 1924, Union centrale des arts decoratifs, Pavillon de Marsan
おやつ※田松方コレクション、所蔵先不明	Le Gouter (à Trestrazou)	1914	Druet	10000	1924, Union centrale des arts decoratifs, Pavillon de Marsan
踊る女たち	Danseuse	1905	?	-	
素描20点	20dessins		Druet	20000	

Naoko Sugiyama

Today, the NMWA collection of works by Maurice Denis includes 35 works from the Matsukata Collection (17 oil paintings and 18 drawings) that were purchased by Kojiro Matsukata in the early 1920s, retained in France by the French government, and finally returned as a gift to the NMWA in 1959. These works were created from 1910 through the early 1920s. In particular, there are a number of works on themes from Denis' travels to North Africa and Italy in 1921. While Matsukata is thought to have collected these works over the course of fourth stay in Europe from April 1921 through the following February, up until now the details of that acquisition process have been unknown.

Léonce Bénédite, who was the director of the Musée du Luxembourg and who acted as Matsukata's onsite purchasing and collection representative, influenced the formation of the Matsukata Collection on various fronts. Letters show that Bénédite had been closely connected to Denis since before 1910. The Galerie Druet introduced Denis to Bénédite when the Musée du Luxembourg was considering acquisitions. Later Bénédite purchased paintings for Matsukata from the Galerie Druet. In letters exchanged between Léonce Bénédite and Matsukata from November 1920 through the following year, Léonce Bénédite promised to buy works from Denis, and in line with Matsukata's wishes, he went so far as to visit the artist in his studio for such discussions. In 1921, Léonce Bénédite purchased 17 oil paintings and 20 drawings by Denis for Matsukata through the Galerie Druet and had them transported to the Musée Rodin where they were stored. Letters exchanged between the Galerie Druet and Léonce Bénédite regarding those purchases include the list of works purchased, their prices, and even payment details. Supplementing the information contained in the letters, the exhibition catalogues and photograph albums of works handled by the Galerie Druet reveal the process by which the paintings purchased for the Matsukata Collection by Léonce Bénédite were loaned to the gallery for a one-man show by Denis, thus also clarifying the importance of the Matsukata group of Denis works in the artist's overall oeuvre.

The letters indicate that Matsukata in his plans for building an art museum shared the same goals as Léonce Bénédite regarding the dissemination of French art, and that Denis himself actively utilized the Galerie Druet as a powerful intermediary. Given the additional fact that Denis had been introduced and favorably evaluated in Japan from the 1910s onwards, it is clear that a number of different factors influenced the fate of Denis's works in the possession of the Japanese collector Matsukata. However, at the same time, these letters further clarify that without the fervent activities of Léonce Bénédite and his support for Matsukata's goal of building an art museum, these collection activities would not have been realized.